

令和3年第1回竹原市総合教育会議 議事録

午後3時30分開会

1 日 時 令和3年10月28日(木)

午後4時55分閉会

2 場 所 市役所 3階 委員会室

3 出席構成員 今榮市長, 高田教育長, 浅野教育長職務代理者, 市川教育委員,  
竹下教育委員, 西川教育委員, 平田教育委員

4 説明員 新谷副市長, 平田総務企画部長, 塚原市民福祉部長,  
沖本教育次長兼総務学事課長, 三上企画政策課長, 森重健康福祉課長,  
富本人事管理担当課長, 大橋教育指導担当課長, 堀川文化生涯学習課長,  
中川事業調整監

5 協議事項

- (1) 竹原市教育大綱重点的施策の主な取組内容について
- (2) 民間企業等との連携について
- (3) 新型コロナウイルス感染症に関する取組について

○三上課長           それでは定刻になりましたのでただいまから, 令和3年度第1回竹原市総合教育会議を開催いたします。初めに, 開催にあたりまして今榮市長から挨拶をお願いいたします。

○今榮市長           お忙しい中, お集まりいただき誠にありがとうございます。また, 日頃から皆様には教育行政はもちろんのこと市政全般にわたりまして御理解御協力をいただいております。この席をお借りしまして, 重ねて厚く御礼申し上げます。竹原市が急速な少子高齢化と本格的な人口減少が進む中で, 持続可能な都市となるよう第6次竹原市総合計画において将来都市像を「元気と笑顔が織り成す 暮らし誇らし、竹原市。」と掲げ, 誰もが住みやすいと実感し, 誇らしく思えるまちを目指して, 各種施策の推進を図っているところであります。学校教育に係る施策の方向性につきましては, 「夢をもち, 多様な人々と協働し, 社会を主体的に生き抜くことができる

人材を育成している」ことを目指す姿として、地域とともにある信頼される学校づくりの推進、幼保小連携教育の推進、充実した教育環境づくりなど子供たちが夢の実現に向け、挑戦できる環境を確保するよう取り組んでおります。

こうした中で、今年度におきましては、7月と8月に民間企業と包括連携協定を締結し、健康づくり、食育推進、スポーツ振興、子供の見守り等に関すること、また、10月には県立広島大学と包括連携協定を締結し、教育・文化・生涯学習などに関するすることで、それぞれ支援をいただけることになっており、産官学の連携により幅広く児童生徒の教育環境の充実に努めているところであります。

本日の会議では、竹原市教育大綱における主な取組と、先程申しました企業等との包括連携協定に係る取組などについて、それぞれ事務局から説明させていただきます。

委員の皆様におかれましては、闊達な意見交換により教育に関する方向性を共有し、より一層の連携強化を図ることで、教育行政の更なる充実につなげてまいりたいと考えておりますので、本日はよろしくお願いたします。

○三上課長 続きまして高田教育長から御挨拶をお願いします。

○高田教育長 教育委員会を代表いたしまして一言御挨拶を申し上げます。今榮市長におかれましては、日頃から本市の教育行政の推進に深く御理解いただきまして、委員一同厚く御礼申し上げます。さて、市立学校におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により予定しておりました行事等を延期または中止しなければならない状況は依然あるものの、これまでのコロナ対策に係る知恵や教訓を生かして、教職員と子供たちが、「どのような内容や方法であれば実施できるか」こういったことについて主体的に考え、「学びを止めない」教育活動を推進しているところであります。

ところで、子供を取り巻く環境は、少子化・人口減少・高齢化など様々な課題が急速に進行しておりまして、地域全体で子供の教育を支える体制

づくりが重要であると考えているところでございます。そのため、本年2月に学校適正配置懇話会を設置しまして、学校適正配置の方向性等について現在検討が進められており、今年度末には答申を受けることとなっております。今後、その答申を踏まえて、学校適正配置計画を策定いたしまして、これからの時代に相応しい教育をより充実することができる学校再編等の推進を図ってまいりたいと考えております。そして、地域とともにある信頼される学校づくりを推進していくため、今年度から、市内全ての学校が学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとなりました。コミュニティ・スクールが、学校にも地域にとっても、魅力ある持続可能な制度となりますように深化させていきたいと決意しているところでございます。

さらに、昨年度から始めました未来の人材育成事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度もハワイへの派遣研修は中止といたしました。しかしこの取組も中断することがないように、市内中学校第3学年及び義務教育学校第9学年の生徒がハワイ州の中学校等とオンラインによる交流ができるよう最終調整をしているところであります。今できるオンラインにより世界とつながり、ふるさと「たけはら」を広く発信できる人材の育成を進めてまいりたいと思っております。

また、誰一人取り残さずことなく、個別最適化された学びの実現を目指したGIGAスクール構想に向け、今年度から児童生徒に端末が配付されました。各教科の中で効果的な活用を目指し、様々な実践を積み上げているところでございます。今後、端末の家庭での活用も想定し、さらなる学習効果につながるものと期待しております。

生涯学習の分野におきましては、社会教育及び生涯学習の施策や主な内容を関連させ、系統的に取り組むため、「竹原市社会教育・生涯学習ビジョン」を今年度中に策定するよう現在取り組んでいるところでございます。

そして、今年4月から指定管理者株式会社図書館流通センターによる竹

原市立書院図書館の運営を開始し、祝祭日の休館日の見直しによる開館日の増加、書架等のレイアウトの変更など、利用者目線に立ったサービスの向上を図っております。

また、今月から来月にかけては、市民の舞台発表や美術展、児童生徒による図画書道展などを開催する等、市民のみなさんが文化芸術を楽しみ、触れる機会を創出しているところでございます。

最後に、歴史・文化財につきましては、町並み保存地区をはじめとした文化財について、「保存」と「活用」の両面から取り組んでいるところでございます。今年度は、保存の面では、新たに竹原市重要文化財の指定を行うとともに、旧森川家住宅の本格的な修理に着手をいたします。また、活用の面では、埋蔵文化財の発掘現場の見学や歴史的建造物の社会実験など多様な取組を展開しているところでございます。こういったことや日本遺産の持つコンテンツとも併せて、市民の各年代に渡ってふるさと「たけはら」への誇りや愛着が涵養されていくことを照射しながら取り組むことが大切であると考えております。

今後におきましても市長と教育委員会とが十分な意思疎通を図り、学校、地域、保護者が一体となった教育を進めていき、子供たちの学びの充実はもちろんのこと、竹原に愛着と誇りを持ち、どの世代もがつながり、生涯にわたって学ぶ意欲をもつことができる教育環境の更なる充実を図りたいと考えておりますので、格別の御理解と御協力をお願いして、私の御挨拶とさせていただきます。よろしく願いいたします。

○三上課長

ありがとうございました。それではここからの進行につきましては、この会議の議長である今榮市長にお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○今榮市長

はい、それでは会議の進行をさせていただきます。円滑な運営にご協力をよろしくお願い申し上げます。それでは早速ですが、協議事項等に移ります。配布している次第にありますとおり、本日の協議事項は、「(1) 竹原

市教育大綱重点的施策の主な取組内容について」「(2) 民間企業等との連携について」「(3) 新型コロナウイルス感染症に係る取組について」の3つとなっています。まず、(1) 竹原市教育大綱重点的施策の主な取組内容について協議に入ります。それでは、事務局より説明をお願いします。

○富本課長

総務学事課の富本でございます。座ったままで失礼いたします。資料1の1にございます竹原市教育大綱の重点的施策の主な取組内容についてまずは総務学事課から学校教育の充実について御説明をいたします。私からは1点目の「地域とともにある 信頼される学校づくりの推進」のうち、「開かれた学校づくりの推進」に関わり、コミュニティ・スクールの進捗について説明させていただきます。昨年度、先進的に4校（忠海小・中、竹原小、吉名学園）ですが、全学校に学校運営協議会制度を導入しました。あわせて竹原市立学校全ての学校への学校運営協議会設置に向け、各校に準備委員会を立ち上げる準備を進めてまいりました。そして、令和3年4月、竹原市内全ての学校がコミュニティ・スクールとしてスタートしました。昨年度はコロナ禍の中で、計画的に準備委員会を開催することが困難であったり、市主催の研修会、先進地視察等ができなかったりとそうした状況の中ではあったのですが、各校とも前向きにコミュニティ・スクールのスタートに向けて準備を進めてまいりました。今年度もコロナ禍の不自由な状況ではございますが、計画的に学校運営協議会を開催し、子供たちの学びや生活を支援していくためにできることは何か、できることをどのように進めていくかを御議論していただいているところであります。今年度も市教委主催の学校運営協議会委員、また教職員を対象とした研修会も計画しており、8月にはかつて校長として、コミュニティ・スクールの実践経験のある大学の先生をお招きし、研修会を実施する予定ではありましたが、新型コロナウイルス感染症対策の関係もあり、直前に中止となってしまいました。今後の研修会開催につきましては、改めて計画する予定にしております。その他市教委からの支援として担当者が積極的に学校運営

協議会へ参加し、学校運営協議会制度について講話をしたり、必要に応じて指導助言等を行っております。また、広く市民への周知の機会となるよう、社会教育委員の研修会等でもコミュニティ・スクールについて話をさせていただいております。学校と学校運営協議会は、学校を運営していく上での良きパートナーであります。学校と地域が連携・協働し、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めるとともに、地域の教育資源となる人材・環境を発掘し、地域の力を生かした教育内容の創造として引き続き「社会に開かれた教育課程」の実現を進めてまいりたいと考えております。以上でございます。

#### ○大橋課長

引き続きまして、私の方からは重点の柱の2点目から6点目まで、時間の関係で主な柱に焦点を当ててお話をさせていただきます。まず2ページ1つ目の柱であります、幼保小連携教育の推進についてです。幼児期の教育と小学校以降の教育の連携につきましては、接続カリキュラムをそれぞれが作成し、子供たちがスムーズに移行できるよう取組を進めているところでございます。昨年度は小学校の幼保小連携教育担当の教員を対象としました広島県教育委員会主催の研修会が実施され、市内の小学校等職員1名ずつが参加をしました。研修の中では、本市も作成しています「スタートカリキュラム」の作成の意図について、再度見直し、実際に機能できるよう、修正や改善を行うという内容でした。今年度は5月に小学校の担当者と園所等の担当者が合同で実際の授業をもとに研修を行いました。子供の姿を通して、それぞれが作っているカリキュラムがしっかりと機能するよう、目の前にいる子供たちの姿と合致しているかどうか、学びが繋がっているかどうかというところを視点を話し合いを行いました。

来年度はさらに広島県教育委員会の事業を活用し、園所そして小学校等の関係者をメンバーとした協議会を立ち上げ、定期的な授業、保育参観、あるいは講師を招聘した研修会などが実施できるよう組織的な体制づくりを構築してまいりたいと考えております。続きまして3ページの柱の3番

目、「確かな学力」の向上についてです。ここではICT活用教育の推進について重点的に説明させていただきます。今年度からの1人1台端末の配布を実現するため、昨年度から主に授業におけるICT機器の活用方法等に係る研修を実施しているところでございます。実際に今年度4月に、クロームブックを1人に1台ずつ配付することはできましたが、その中の「G Suite for Education」のソフトを具体的に使っていくことで実際の授業イメージを持つことができています。特にその中にあります「クラスルーム」を使い児童生徒の顔を見ながら双方向でやりとりができる「ミート」や、共有のボードに付箋を使いながら書き込んでいく「ジャムボード」等、体験しながら研修を行っているところでございます。今年度はとにかく「いろいろ試してみる」ということをキャッチフレーズとし、様々な教科の中で活用しているところです。今後は知識的なスキルをアップするためにも専門的な知識を有した講師を招聘するなど、教職員研修の充実も図ってきたいと考えております。今後におきましても「GIGAスクール構想」の実現に向け、ICTを活用することの良さを生かし、主体的・対話的で深い学びのある授業を目指し、取組を充実させていきます。続きまして4ページ4つ目の柱、「豊かな心」の育成についてでございます。この中でとりわけ生徒指導の充実についてお伝えをさせていただきます。現在も各学校におきましては様々な事案が発生しております。しかしながらその都度、児童生徒の実態、そして家庭環境、また関係機関との連携を密にとりながら取り組んでいるところでございます。また、県の指定を受けてスペシャルサポートルーム、通称、SSRを昨年度から引き続き今年も設置し、不登校児童生徒の支援の方法、内容について研究をしているところでございます。現在、本市におきましては2校にこのSSRを設置しておりますが、週1回このSSRに県教委の指導主事が常駐し、対象児童生徒への支援の仕方を具体的に指導していただいたり、校内における支援会議に参加して助言いただいたりすることで、不登校傾向の児童生徒に対する支援につい

での実践を積み上げているところでございます。さらに今年度からは「適応指導教室」、通称わかたけ教室を新設し、個の実態に合わせた内容で指導するとともに社会的自立に向けた支援も行っております。現在4名の児童生徒が入室しており、個の状況に合わせた支援を積み重ねているところでございます。以上のような取組を継続的に行っていくことで、市内の全児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう実践を積み上げてまいりたいと思っております。

次に5ページ柱の5つ目、「健やかな体」の育成についてです。健康教育の充実ということですが、コロナ禍の時代で子供たちに関わる学校生活そのものが今は健康教育とあって良いくらい、自分そして友達・家族の命を守るというところで各学校がしっかりと工夫を行いながら取組を継続しています。「体力づくりの充実」におきましては、今年度は新体力テストが実施できましたので、各校の課題を明確にし、課題克服に向けた取組を行っているところでございます。

続きまして、6つ目の柱、「充実した教育環境づくり」についてです。6ページをご覧ください。小中一貫教育の推進を行っているところであります。今年度は新たに開校しました忠海学園では、今までの実践を基盤とし異学年交流や学校行事等を効果的に活用しながら推進を図っております。また、吉名学園では義務教育学校の特色を生かした乗り入れ授業、教科担任制、あるいはカリキュラムの編成など、「探究的な学び」の充実に向け、実践を積み上げております。竹原中学校区や賀茂川中学校区におきましても定期的に小中一貫教育協議会や研修を行っており、育てたい子供像や育みたい資質・能力を9年間の学びの姿を共有しながら、見通しを持った継続的な取組を推進しているところです。

それでは最後に、竹原市の海外派遣研修についてです。竹原市の次代を担う青少年が外国語によるコミュニケーション能力を高め、異文化・自文化理解を深め、世界と繋がり、ふるさと「たけはら」を広く発信できる人

材を育成することを目的として行っております。残念ながら、今年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の蔓延を受け中止となりましたが、ハワイ州の学校とのオンライン交流ができるよう現在調整を行っているところです。今後におきましてはこの海外研修はもとより、日常的に海外の学校と交流する学習を取り入れたり、海外の方とのコミュニケーションを大切に活動を実施したりすることで、子供たち一人一人が自らの夢の実現に向け挑戦し、そして地域・竹原を支え世界で活躍できる人材を育成してまいります。私からは以上です。

○沖本教育次長  
兼 課 長

続きまして、6番目の柱に戻りますが、「充実した教育環境づくり」の竹原市立学校適正配置懇話会事業について御説明申し上げます。皆様、御承知のこととは思いますが、竹原市立学校の適正配置等を図るにあたり竹原市立学校適正配置懇話会を設置しているところでございます。このことにつきましては、懇話会の前回の答申から17年余りが経過していることや少子化の進展に伴う児童生徒数の減少によりまして、一部の学校で複式学級が発生するなどしており、教育指導上の課題が多くあるということで、こうした取組を進めているところでございます。現在の取組状況でございますが、令和3年2月5日に第1回目の会議を行いまして、教育長から適正配置懇話会会長に諮問を行っているところでございます。諮問事項につきましては、市立学校の適正配置及びブロック制の再編について、市立学校の統合再編について、市立学校の統合再編の時期について、小学校・義務教育学校前期課程学校選択制の導入の是非について、この4点について諮問しているところでございます。今年度におきましては、これまで第2回から第5回までの会議を行い、これら諮問事項に関しまして様々な意見を出していただいているところでございます。今後は、12月21日に第6回目を、そして来年2月頃に第7回目の会議を開催し、これまで議論された内容を踏まえまして、答申を取りまとめていく予定としております。そして、来年度、答申を基に適正配置計画を策定し、その後、その適正配

置計画に則った取組を進めていく予定としています。

○堀川課長

続きまして施策の柱2，生涯学習・青少年育成について文化生涯学習課から説明をさせていただきます。資料7ページをご覧ください。竹原市社会教育・生涯学習推進ビジョンについて、社会教育・生涯学習については、総合計画の位置付けでの推進いたしております。今回、系統的に取り組むよう、社会教育・生涯学習推進ビジョンについて令和4年度の策定に向けて取組を進めております。資料1―2で現時点の案を配付させていただいております。目指す姿として「多彩な生涯学習の場を充実し、それらを担い、推進していく人材が育っている」を基本目標とし、基本的には第6次竹原市総合計画と対応させております。キーワードは「人材育成」です。少子高齢化に伴って、人口が減少していく中で本市においても各種団体などで担い手不足・人材不足が顕著となっている実態がございます。社会教育・生涯学習の取組を行い、地域で活躍する人材を育成することで、そういった課題の解決につなげたいと考えております。社会教育・生涯学習は、個人の成長と地域社会の発展の双方に重要な意義と役割があると言われております。庁内関係部署との連携を図り、社会教育を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくりを学びと活動の好循環とし、生涯学習を通じた豊かな人生の実現，スポーツを通じた活力ある社会の構築を目指し、それらを担い推進する地域の人材育成とともに、まちづくりを進める必要があると考えております。次に②生涯学習拠点・機会の充実について、図書館においては「生涯学習の知の拠点」としての役割を担い、利用者のニーズに応じた移動図書館車の運営や図書の購入などにより学習拠点・機会の充実を図っているところでございます。今年度4月から指定管理者制度を導入し、株式会社図書館流通センターによる運営を開始しております。祝日休館日の見直しによる開館日の増加，書架等のレイアウトについて開架冊数を減らし，案内表示を増やすことにより来館者が目的を探しやすいように改善されたほか，書架の傍らへのスツールの設置，車椅子の利用し

やすい場所への配置など、利用者目線に立ったサービス向上が図られています。併せて令和2年11月に運用を開始した電子図書については、図書館ホームページの掲載図書の更新に取り組むことで、利用者の増加に繋がっております。次に③学校と地域の共存による生涯学習の推進につきましては、県のモデル事業の採択を受けた「学びから始まる地域づくりプロジェクト」については、生涯学習を通じた地域活動の担い手の人材育成を図るため、コミュニティ・スクールと社会教育の関わりをテーマに、忠海地区をモデル地区に選定し、事業計画の作成に取り組んでいます。今年度、忠海地区2カ所の地域交流センターでは、子育て支援講座、児童生徒向け講座の充実を図り、子供たちとの繋がりを強める取組を行い、また学校からの要望に対しては、地域の情報を提供する等の支援を行っております。地域と学校の思いを双方向で整理し進められるよう、地域交流センターが地域と学校を繋ぐハブとなる役割となるよう取り組んでまいります。なお当初、令和2年度・3年度の2か年で取り組むこととしておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度活動ができていなかったため、令和3年度・令和4年度での事業に取り組むよう県の生涯学習センターとともに調整し変更していただいております。次に④スポーツ・芸術の振興につきましては、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で行事の中止、市民ハイキングや駅伝競走大会中止等がございますが、感染症対策を行った上で12月4日土曜日のトップアスリート教室の実施や総合文化祭については、昨年度中止となった舞台発表を含めて、竹原市美術展、児童生徒の図画・書道展等の展示部門と併せて10月末から11月にかけて例年通り開催することとしております。次に歴史・歴史文化財についてです。資料が9ページになります。取組の方向性について3点ございます。まず1点目は、文化財の保存・継承の推進です。未指定の文化財の調査を進め、長善寺の仏像を竹原市重要文化財（美術工芸品）に、竹原町の長寿ブドウを竹原市天然記念物に指定いたしました。また昭和57年に国の重

要伝統的建造物群保存地区、いわゆる町並み保存地区に選定以来継続して実施している、町並み保存地区における建造物等の修理・修景事業のほか、旧森川家住宅の今後の保存・活用方針を検討するため、令和元年度から行った建造物調査等の報告書を今年度作成し、離れ座敷の修理を実施するための準備に取りかかっています。続いて2点目は、文化財の活用の推進です。市が所有する歴史的建造物について特別感や地域特性を演出できる施設を目指し、今年度民間事業者による社会実験を実施するための準備を進めているところでございます。最後に3点目は、歴史資産の普及啓発の推進です。国道432号線道路改良工事に伴い、竹原市内で10年ぶりに実施された埋蔵文化財の発掘調査の現場、新庄町城ノ本遺跡でございますが、そこにおいて賀茂川中学校全生徒の見学、竹原市内の小学生及び義務教育学校の1年生から6年生を対象とした歴史体験講座や住民向けの見学会を行いました。また、旧森川家住宅の建造物の調査結果について市民を対象として、子供向けと大人向けと分けた報告会を11月13日土曜日に開催するため準備を進めております。以上です。

○塚原部長

それでは、社会福祉課から説明いたします。8ページにお戻りください。8ページの⑤です。家庭学校地域等の連携による教育力向上の推進についてでございますが、2つ目の青少年活動に関わる団体の育成でございます。青少年活動に関わる団体の育成につきましては、青少年育成竹原市民会議を中心にあいさつ運動、ふれあい交流、体験学習などの地域活動をいたしております。続きましてその下⑥です。青少年の健全育成に向けた環境づくりの推進でございます。まず要保護児童への対応強化についてでございますが、児童虐待の内容が深刻化・長期化しており、適切な対応が求められる中、要保護児童対策地域協議会、いわゆる要対協でございますが、関係機関と連携・協力し、早期発見、早期対応、再発防止の対応強化を図っております。要対協であります。昨年と同様、今年もコロナの影響で代表者会議を開催しておりませんが、その他の実務者会議や必要に応じて行う

個別のケース会議につきましては、通常通り開催いたしております。続きまして9ページの上の段になりますが、青少年の健全育成についてです。青少年の健全育成につきましては、青少年育成竹原市民会議と連携を図りながら7月の「青少年の非行・被害防止全国強調月間」には、チラシ回覧による啓発を行い、11月の「子供・若者育成支援推進強調月間」においては、中学3年生を対象にインターネット被害防止を呼びかける啓発グッズの配布を予定するなど、青少年の健全育成と非行被害防止に向けた取組を行っております。また、広島県青少年健全育成条例に基づく立入調査を実施する予定で、書店やコンビニエンスストア等で図書類の調査点検を行っております。以上でございます。

○今榮市長

今、いくつか説明がありました。御意見・御質問をいただきたいと思っております。昨年の会議から副市長がアドバイザーとして参加させていただいておりますので、途中にコメントを求めることがありますが、よろしく願います。委員の皆様どうぞ御意見等ありましたらよろしく願います。

教育委員会会議で今の説明の内容についてほとんど触れている部分があると思っておりますので、具体的にこの場で意見等無いかもしれませんが、関連のものでも構いませんので、どうぞ御発言ください。2点目3点目もありますので、全部進めてからでも構いません。では進めさせていただきます。2番目の民間企業等との連携について事務局の方から説明よろしく願います。

○三上課長

企画政策課の三上と申します。それでは資料2によりまして、民間企業等との連携について説明させていただきます。現在、竹原市では6社の企業と包括連携協定を結んでおります。そのうち教育関連の取組ということで2社との取組を報告させていただきます。まず広島ドラゴンフライズとの提携についてでございます。連携の目的でございますが竹原市と広島ドラゴンフライズがそれぞれの有する資源や機能等の活用を図りながら相互に連携協力することで、お互いの発展に資することを目的として、令和

元年9月30日に協定を締結したところでございます。連携協力事項としては、(1)から(5)まで掲げておりますが、教育関連の取組ということで(1)子供の健全育成に関すること、(2)スポーツ振興に関することについて説明いたします。「3.令和3年の取組」ですが、昨年度のこの会議での説明以降に行ったものということで、令和3年の取組をご紹介します。まず1点目は1月になりますが東野小学校と中通小学校の児童からドラゴンフライズへちょうどその当時、チームの方が大変苦しい状態にありましたので、是非応援のメッセージを贈りたいということで、校長先生の方に代表してメッセージを届けていただきました。令和2年8月にこの両校に選手とコーチの方に来ていただき、交流とバスケットボールの指導をしていただきました。その繋がりからメッセージを贈りたいとのことでお話をいただいた取組でございます。チームの方からは、各学校に対して選手からお礼のメッセージ動画をご提供いただきました。次に2点目として、1月から3月にかけて竹原中学校のバスケットボール部へドラゴンフライズの岡崎ゼネラルマネージャーと大浦スクールコーチに定期的にお越しいただきまして、バスケットボール部への指導を行っていただきました。その際の目標としては、部員の成長と大会に出ての1勝というのが目標として掲げられておりまして、最終的に地区の大会に参加して1勝1敗ということで1勝あげることができました。当時の顧問の方からは成果があったとか目標を達することができたよということで、お言葉を頂戴しているところでございます。この取組に関しては期間を通じてタネットの方に取材をしていただき、最終的に編集し、まとめたものを放映していただきました。最後3点目として、今年7月になりますが、竹原西小学校と仁賀小学校へ選手2名とコーチ2名が訪問し、バスケットボールの指導・講義を行っていただいております。その際、併せて竹原市役所にも選手と社長の方にお越しいただき、大雨被害にあわれた方への激励のメッセージをいただいております。「4.今後の取組の予定」でございます。

教育関連の取組としては、このような学校訪問を行った際に児童にお答え  
いただいておりますアンケートの結果などを参考にしながら、引き続き、  
バスケットボールを通じた生徒の皆さんの健全育成、スポーツの振興を図  
ってまいりたいと思っております。

裏面をご覧ください。資料2-2の県立広島大学との連携でございます。  
連携の目的ですが、県立広島大学と竹原市がそれぞれの人材や知識、情報  
などの資源を活用して相互に連携して協力し、地域の発展やまちづくりの  
推進に寄与することを目的として、令和3年10月12日に協定を締結した  
ところでございます。「2.連携協力事項」でございますが、(1)から(7)  
まで掲げており、教育関連の取組としては、現在、(2)人材育成に関する  
こと、(4)教育・文化・生涯学習の推進に関することについて取組を進め  
ようとしております。「3.令和3年度の取組」についてでございます。ま  
ず人材育成に関する取組としては、竹原市地域次世代ビジネスリーダー養  
成講座、「憧憬未来塾」を10月30日から開講することにしております。  
こちらは竹原市内で実践的な経営を学ぶ連続講座ということで、地域経済  
を牽引できる次世代のビジネスリーダーを養成するための経営人材育成プ  
ログラムとなっております。10月30日から始まりましてこれから2年間、  
総受講時間136時間のプログラムとなっております、オンラインでの講座と対  
面での講座をあわせて実施していくこととなっております。講師の方を県  
立広島大学、主に大学院の教授方などにお越しいただくこととなっております。  
2つ目は生涯学習の取組ということで、令和4年1月下旬を予定し  
ておりますが、県立広島大学の教授である助産師の方に女性の健康につい  
て講座を開設していただきます。場所は竹原地域交流センターを予定して  
おります。「4.今後の取組」でございますが、教育関連の取組ということ  
で市内各地、地域交流センターなので行われている講座や習い事、グルー  
プ活動などに加えまして、県立広島大学がもつ知見と人材を活かした生涯  
学習活動の場の提供などを図ってまいりたいと思っております。以上ございま

す。

○今榮市長           この件について御意見や御質問があればお願いします。いかがでしょうか。

○市川委員           ドラゴンフライズさんとの連携の件で、子供たちはとても喜んでいたと思います。ドラゴンフライズさんに対して竹原市が何をしているのか素朴な疑問があります。教えていただければと思います。

○三上課長           竹原市からドラゴンフライズに対しては、コロナの影響によりしっかりとした実施に至っていないところもありますが、竹原市民を募って応援ツアー、試合観戦を行っております。移動するバスを借り上げて、市民の方にチケット代を御負担いただくようになりますけれども、募って応援に行くということを実施しております。昨年も実施する予定でしたが、コロナ禍の中、そもそも試合ができるのかということや、バスなのである程度人を集めないと効率が悪いのですが、密を避けた方がいいのかなという状況もあり実施に至っておりません。しかし、そういった市をあげて応援することは計画をしております。今年度も実施を考えております。

○今榮市長           付け加えますが、これは行政から主体的に何かを起こすということではありませんが、ドラゴンフライズさんが民間の、例えば竹原ライオンズクラブさんとか商工会議所の女性部などに、私も社長との繋がりなどがあつた上で、講演とかミーティングとかに参加していただいています。逆に団体からチームに対しての支援、そうは言っても企業ですので、いろいろな意味で協賛金の協力をしていただいています。ですから、行政のみならず全体でドラゴンフライズを盛り上げていこうじゃないかという風は起こしていると思っています。逆にドラゴンフライズさんはそれをすごく意気に感じて、竹原の子供たちまたは竹原市のプロモーションに関わる、2年ぐらい前に広報活動のノウハウとかを御教示いただくということも行っています。

○平田委員           2点ほど質問させていただきます。まず県立広島大学との連携です。つ

い2週間前締結とのことですが、県立広島大学は他の市町村とか他の企業とかとこういった取組は実際にあったのかということと、例えば令和3年の取組を見させていただいて、これは例えば教授が主体であるものなのか、県立広島大学の学生とかも一緒に関わっていくものなのか、今後の見込みを教えてください。それからもう1点、ひとつ前に戻りますが、9ページ目の6.青少年の健全育成に向けた環境づくりの推進の件ですけれども、青少年健全育成の取組、今までは、例えばあいさつ運動とか青少年指導員の方等と連携していろいろ活動されていたと思いますが、こういったコロナ禍の状況で、外でのパトロールなどがどのような形になっているのか教えてください。以上です。

○三上課長

それでは1点目については、企画政策課の三上から回答させていただきます。まず県立広島大学と自治体との取組についてどのような事例があるかに関しては、細かい自治体の名前は手元にありませんが、数としては竹原市が11番目になります。県立広島大学のキャンパスは県内に散らばっていますので、そのキャンパスがある三原市、庄原市、広島市南区と締結されています。それ以外でもいくつか結んでおられます。

予定している講座について教授、学生の参加があるのかといったことですけれども、今の時点ではビジネスリーダーの養成講座に関しては、大学の教授の参加になります。生涯学習に記載している助産師の方についても基本的には教授の方をお願いしていますが、こちらについては今から内容を詳細につめていきます。希望としては、学生の方にも参加できるようなものにできないかというのはあります。今後いろいろな取組を広げていく中で、学生の方に参加いただけるような企画ができたらと思っております。

○平田委員

わかりました。ありがとうございます。

○塚原部長

それでは社会福祉課から御回答いたします。先ほど御質問いただきました9ページの青少年健全育成の件でございますけれども、パトロール等に

については、諸般の事情で去年から中止をいたしております。例えば書店等に関する立ち入り調査は実施いたしております。あとは、8ページの⑤の2つ目の項目、「青少年の活動に関わる団体の育成」ということで、内容的には同じになりますが、パトロールではなくてあいさつ運動であるとかふれあい交流、体験学習といったものを青少年育成竹原市民会議の中の各地区、19地区で理事さん達を中心にそういった活動を行っている状況です。

○平田委員                    ありがとうございます。

○竹下委員                    県立広島大学との連携についてですが、先日の新聞で連携協定の記事の中に女性の健康についての講座を計画しているという内容が載っていてすごく興味を持ちました。私は教育委員ではなく女性会の立場で、広島県の女性は健康寿命が全国的に最も悪いくらいだという話を聞き、県の女性会でも女性の健康についての講座を計画しています。コロナ禍で皆さんなかなか身体を動かす事がなく、体力が落ちたという話はよく聞くので、ぜひ女性会だけでなく、できれば、竹原市老人クラブ連合会とも一緒になって取り組んでいければいいなと思います。これから高齢者が増えていくので、できるだけ自分の力で健康を維持するという健康に関する講座はどんどんやっていただきたいと思います。来年1月に竹原地域交流センターで行われるということなので、そこから全地域でそのような講座が聴けたらなと思っています。こういう健康講座や体を動かすことだけではなく、他にも高齢者の生涯学習といった講座があれば、コロナが収まったら家に閉じこもるのではなく外へ出て、頭と体を使って健康な毎日を送れる、そういった講座を増やしていただきたいと思っております。

○今榮市長                    今の御意見に対して、森重課長は何かありますか。

○森重課長                    健康福祉課の方でも身近な交流の場をどんどん増やしておりまして、高齢者の方が歩いて行ける距離で、週に1回程度活動ができるようなまちづくりをしていきたいと思っております。それに加えて、そのような健康講座にも力を入れていきたいと思っております。

○今榮市長                    その他はよろしいですか。

○西川委員                    県立広島大学との連携に絡めて、今後、もし他大学との連携も考慮される機会があれば、お願いなのですが、県立叡啓大学が今年4月1日に開校しました。竹原市はグローバル化・グローカル化ということで英語に非常に力を入れています、ALTの先生の不足、外国人の方が少ない街です。叡啓大学は、ソーシャルデザインの1学科、1学年100名で、100名のうちの約25人は多国籍の方を迎え入れる大学です。英語を非常に鍛えていって、Society5.0の影響においてSDGsを意識したアクティブラーニングを基にした課題解決型教育は、竹原市の方で子供たちに押し進めていることと非常にマッチする内容です。叡啓大学は自治体や民間等も含めて企業へプレゼンに行って、実際自分たちが考えた課題解決方法を実践してもらおうという取組を行っていて、当然、海外留学が単位取得の必須条件になっています。叡啓大学と連携することによって子供たちがより英語に取り組み、ただ英語を学ぶのではなく、多国籍の方々と交わって一緒に課題解決型の学習ができるといいと思いますので、是非とも叡啓大学のことを検討していただければと思います。よろしくお願ひします。

○三上課長                    では企画政策課の私の方から。県職員で元は叡啓大学を担当する部署にありましたので、だいたいのことは認識しておりますが、確かに地域の課題を探し出してそれを題材とした授業を展開するというのが一つの特徴でもあり、そういった連携ができないかということを考えてみたいと思います。叡啓大学に限ったわけではないのですが、大学との連携協定という話になりますとやはり地域の課題、地域で困っていること、自治体として何をしたいのかということが求められますので、そういった意味で先ほど委員がおっしゃられた竹原市の学校現場での取組に何か関わりをとということであれば、そういったことを御説明いただいて、それを基に連携できないか話を進められたらと思います。少し考えさせてください。

○今榮市長                    では、時間の関係もありますので、3点目の新型コロナウイルス感染症

に関する取組について担当課から説明をお願いします。

○森重課長

健康福祉課の森重と申します。10代の新型コロナウイルスワクチン接種に係る本市の取組について御報告いたします。資料3をご覧ください。まず1の本市の接種状況でございますが、今ここに10月18日時点のものを掲載しておりますが、10月25日の最新のものも公表されておりますので、御報告いたします。全人口24,543人に対し、1回目を接種された方が20,224人、2回目を接種された方が19,894人、接種率はそれぞれ82.40%、81.06%でございます。そのうち、12歳から19歳の方が人口1,523人に対し、1回目を接種された方が1,161人、2回目を接種された方が1,107人、接種率は76.23%、72.69%になっております。ここまで本市においては接種が順調に進んでおり、接種希望者はほぼ接種を終えられている状況でございます。その大きな要因としましては、竹原地区医師会様が当初からワクチン接種が可能な医療機関全てで接種を行っていただき、接種が早め早めに進んだことにより、国からのワクチンが滞ることなく円滑に供給されたためだと考えております。次に2の教育・保育に係る本市のワクチン接種に係る取組でございますが、令和3年6月にクラスター対策として、市内のこども園や小中学校等の子ども関連施設の従事者をキャンセル待ちに追加しました。7月には同じく子ども関連施設従事者を市独自に優先接種の対象としております。また、夏休み中に小児科等の医療機関で接種を終えられるよう、12歳から19歳までの限定の予約期間を設けるとともに、予約開始までに学校を通じて保護者に情報提供を行っております。その後、接種を迷われている方もいらっしゃいますので、随時接種の勧奨を以降行っております。次に2ページをご覧ください。3の年代別接種状況の比較でございます。広島県や全国の状況では、年代が下がるほど、10代の接種率が1番低くなっておりますけれども、本市の場合は10代から30代までほぼ同程度の接種状況となっております。取組の効果が出ているのではないかと考えております。次に3ページでございます。4の

本市の感染状況でございます。①竹原市月別感染状況をご覧ください。本市においては、これまで10月19日公表分の1名、昨日公表分の1名を含め、87人の感染者が出ております。②と③で第4波と第5波の年代別感染状況を比較しております。高齢者のワクチン接種が終わった段階の第5波では、報道等でも全国的にありますように、本市においても60代以上の高齢者の感染は減少しております。また、30代、10歳未満が増加しており、これも全国的な傾向と同様、家庭内での感染も見られたところがございます。最後に、資料にはございませんけれども、学校やこども園での感染状況でございますが、感染者は出ておりますが、現在のところ校内や園内での感染の広がりはありません。そのため、休校や休園も消毒や検査などのための最低限で済んでおります。今後も油断はできませんが、保護者と学校・こども園の連携がうまくとれており、感染拡大防止対策がしっかり行われているためではないかと考えております。報告は以上です。

○今榮市長                   ただいまの件に関して御意見等はありませんか。

○浅野教育長  
職務代理者               コロナワクチン接種については、竹原市では医師会の先生方がみんな手挙げをしたというところもあるのですが、非常に優れた方法でやっていただきました。実は、コールセンターを作り、予約・キャンセル全てそこで賄っていただきました。他の市町は、医療機関で直接予約をとり、キャンセルが出た場合、次の接種の人を探さないといけないというような仕組みの所が多く、とても困っていたということがあるそうです。おそらく3回目は竹原市の方式を真似される所もあると思いますが、どこよりも早く接種が済みました。どうもありがとうございました。一応、皆さんに知っておいていただきたいと思いました。

○今榮市長                   ありがとうございます。

○大橋課長               それでは私から学校教育の現場の中でどのようにコロナ対策がされているかということを少しだけ紹介させていただこうと思います。昨年度からのこのコロナ禍で、本当に各学校では子供たちや地域の実態に合わせて

今まで当たり前に行っていたことを見直しながら、工夫をしながら推進をしているところです。本市の中ではマニュアルを大事にしておりまして、日々の教育活動は文部科学省から出ております生活様式マニュアル、これを県のルールに合わせてどういう教育活動をしなければならないかということを段階的に示してありますので、これに基づいて行っております。キャッチフレーズというか、教育長もいろいろな場で言っていますが、とにかく学びを止めないというところで、なんとかこういう苦しい状況ではありますが、子供たちの学びを止めないということでやっています。大きく分けて3点ございます。1点目が感染症対策の徹底をしていくというところで、当たり前に行っている手洗い・うがい・マスクの着用、そして換気というようなところを徹底して今も行っています。そして、2つ目が教育活動の改善というところで、先ほども申し上げました、今までは例えば当たり前に行っていた体育の水泳、組み合わせ活動、音楽科でのリコーダーの演奏ということもここ最近では非常にしんどい状況ではあります。ただ、学習指導要領にはしっかりと位置付けられていますので、ではこのような状況で何ができるか、というようなところを子供たちも含めて先生たちが知恵を出し合いながら今頑張っているところでもあります。また、主体的・対話的な深い学びをやっていくためには、やはり協働的な学び、つまりグループで意見を出し合うというところは、どうしても一人ではなくて3人あるいは4人で一つの意見を練り上げていく活動もかなり大変なところではあります。では何ができるかということで今やっているところです。それにも絡みますが、3つ目がICT活用ということで、これは竹原市の強みでもあります。例えば先ほどの一緒になって一つの意見を練り上げていく活動ですが、顔をつき合わせてやることは危険リスクが高いので、一人一台端末を利用して、その端末を利用して離れていても子供たちが議論できるような活用の仕方も行っております。これまでの積み上げた成果を生かしながら、今の時代に子供たちに何ができるか、弱みを

強みに変えていく、ピンチをチャンスに変えていきながらやっていくという  
ことで、今頑張って3点を行っているところです。最後に、昨日発表が  
ありました、中学生1人、竹原市で感染が出ましたが、先ほど森重課長が  
おっしゃったように、濃厚接触者が無く、ゼロということで最短の1日の  
臨時休業で終わることができました。これも先ほど申し上げましたように、  
感染症対策を子供たち、そして先生たちだけではなくて、地域や家庭の方  
も一緒になってしっかりとしていただいている証拠であろうというふう  
に思います。もう1つが何か起こったときの危機管理という点で、学校が  
非常にスムーズに動きました。陽性がわかったのが、実は26日火曜日の  
17時20分です。夕方、PCRになるという連絡もなく、いきなり陽性  
がわかって、そこからどう動くかという時間との勝負でしたが、学校が保  
健所としっかり連携をとり、また福祉の方も保健所と連携をとっていただ  
きながらというところで、本当にチームになって一体的に行っていたの  
で、短い時間で様々なことを決めたりとか、判断したりということができ  
ているのではないかというふうに思います。ありがたいことです。今後も  
チーム竹原というところもしっかり生かしながら、コロナ禍をウィズコロ  
ナでやっていきたいと思っています。以上です。

○今榮市長            ありがとうございます。その他ありますか。副市長は、教育委員会、  
市長部局、企業関係の総合的な事業調整であるとか、政策調整をしていま  
す。担当と各部局の間に立って、いろいろな考え方や思いを持っています  
ので、昨年からは出席をさせていただいています。お願いします。

○新谷副市長        副市長の新谷と申します。よろしく申し上げます。私からは1点皆様方  
にお願いと、1点御意見があればいただきたいということでお話ししたいと  
思います。先ほど資料1の教育委員会の資料の方で、3ページの一番上に、  
紹介はございませんでしたけれども、皆様方ご存じのとおり、小学校の算  
数、中学校の国語・数学において県平均に届いていないということが書か  
れております。なおかつ御承知の通り各学校で差が出ているという情報が

あり、皆さんが住んでいる地域によってこういった差が出てくるというのは大変残念なことだとは思いますが。県平均よりも低いということについては、やはりできるだけ上位に上がって行って、我々とすれば例えばですけども、移住定住などそういった観点で子供さんと一緒になって来ていただいても高い教育レベルがありますと言って自慢して皆様をお迎えすることができるような市にぜひしたいということで、後ろにおられる皆さん、教育長を含めてになるかもしれませんが、教育委員会、教育委員の皆さんからも発破をかけていただき、ぜひ良い教育ができるように進めていただければということで、これは私の要望でございます。あと今年から全市的にコミュニティ・スクールということで、教育委員会の方で始めていただいているわけですけども、その中で地域と一体となった学校づくりの話もございました。例えば地域交流センターが学校とのつながりということもございましたけれども、今年もなかなかコロナもあって活動がまだ十分にできてないという段階なのかもしれませんが、このコミュニティ・スクールをより効果的に、学校を地域が支えていく、逆の部分もあるかもしれませんが、学校が逆に地域にいい影響を及ぼしていくということもあるかもしれませんが、相互に良い関係ができていくという方向性に向けてのいろいろな課題があれば、地域における課題というものがあるって我々市長部局の方で、例えば地域の協議会、あるいは自治会、先ほどの地域交流センターで、何かこういう形で市長部局の方で進めてもらったら、もっとコミュニティ・スクールがうまく進むのではないかとかそういったお話があればぜひ我々の方に意見をいただいて、全てができるか分かりませんが、教育委員会と我々も一緒になってコミュニティ・スクールがより良くなっていけるように進めていければと思っております。もし今、いろんな形で関わりを持っておられる中で、コミュニティ・スクールを進める観点で地域に関してのお話として、何かお話しいただけるところがあれば我々としてもできることを進めていけたらと思っております。何か御

意見があったらお願いしたいと思います。以上でございます。

○今榮市長

今の副市長の話に関して、御意見等ありましたらお願いします。

○西川委員

学力の件ですけれども、正直、何年か前に厳しい状況の時もありまして、教育長の計らいで、教育委員の学校訪問を毎年させていただいています。今年も先日終わったのですが、全部の小中学校等を一緒に回りましょうということで、全クラスを見学させていただいています。去年より間違いなく今年は学習姿勢が良い。先生と生徒の学びが多いのですかね。子供たちからも先生のもとで学ぶんだという気持ちが、確かにより大きくなっていることを肌で感じてきましたので、点数が上がっていくことは間違いのないと思います。授業改善も先生方、すごく熱心に取り組まれていますし、先生方もチームとして、教育長から各校長先生にも思いを伝えていきますので、先生方も一生懸命取り組まれています。時間がかかるかもしれませんが、期待感を持って授業を拝見させていただきました。以上です。

○今榮市長

ありがとうございます。

○平田委員

先ほどの学力の低下ですけれども、教育委員をさせていただいて約1年少々経ちますが、スマートフォンで教育のことをよく見るようになりまして、そうすると頻繁に教育関連のニュースが来ます。最近気になるのは長野県の佐久穂町、とても田舎ですけれども大変学力が高い町です。その私立大日向小学校が開校して3年目らしいですけど、町の人口がどんどん減っているのに、その小学校だけとても人気になり、7割～8割が県外からその学校に来て、それが町おこしになって人口が増えていったという話があります。教育は町おこしにもなるのだなと思いました。竹原市も人口が減り、企業を誘致する、都会の人に田舎を体験してもらおうなど、そういうことでお金をよく使っていると思うのですが、ここは本当に教育一点突破でも良いと思うのです。文房具のような感覚でクロームブックを使うなど、教育を頑張ってまちを活性化させるというのも良いと思いますし、教育と一緒にそれぞれの独立したコミュニティが子供だけでなく大人の挑

戦を応援するまちができたらいいなとそういうニュースを見るたびに思っております。以上でございます。

○今榮市長

ありがとうございます。

○竹下委員

コミュニティ・スクールに関係しますが、今各学校で自分の住んでいる地域についての勉強をどの学校も熱心に取り組んでおられると思うのですが、やはり自分が住んでいる町がどんな町だったのか、昔どうだったとかそういうことを知ることによって自分の住んでいる町に誇りを持ったり、興味を持ったりする子供たちはとても多いと思います。自分の住んでいる所に誇りを持つと、進学などで県外へ出てもいつか地元に戻ってくるであるとか、竹原のことを忘れないような感じで、子供たちが竹原に対して、また竹原の中の自分の地元に対して誇りが持てるようなそういった地域の勉強をすることについては地域の高齢者がすごく関わってきています。米作りであるとか、うちの方では神明さんなどの地域の行事についても、高齢者の話を聞いて実際体験すると子供はいつまでも忘れないと思います。高齢者が学校に関わるということは、すごく子供たちにも良いことですし、また高齢者の方も自分はまだ役立っているのだなという感じで、高齢者の生きがいにもできると思うので、これからは学校がどんどん高齢者と関わっていくことが良いと思いますが、今コロナの状況でなかなか学校からもこの度はご遠慮くださいと言われることが多いので、コロナが落ち着いたらぜひ地域のみなさんと学校との関わりをどんどん深くしていっていき、子供たちに地域の、自分のふるさとの勉強をどんどん活発にしていっていただきたいと思います。竹原の子供たちと高齢者、地域のみなさんとの繋がりをより深くなることと思います。コミュニティ・スクールに期待しております。

○今榮市長

ありがとうございます。副市長の言った2点目につながることで、我々市長部局ができることに加えるものとして、ヒントをいただけたものと思います。我々としても十分取り組んでいきたいと思っております。教

育長，何かありますか。

○高田教育長

県立広島大学との連携協定についてもそうですし，教育委員会が取り組んでいるコミュニティ・スクールもそうですが，学びがいろいろな主体と協働することで，確かになっていくということは間違いないなど，それは学校教育においても生涯学習においてもそうだと思います。ですから学校教育の部分で言うと，知識の多寡，知識が多いとか少ないとか，しっかり暗記することがあって，知識の量で評価されてきたこれまでの教育観から，今は知っていることを使って現にどういった課題を解決できる力を身につけているかということに，知識や学び，教育のねらいが定まってきました。そしてそれは，いろいろな主体と協働する中でこそ身につくことだと思います。だから，コミュニティ・スクールにしても実生活とつながる学びができることによって，役立つ学びや子供たちにとって学びが楽しいとか，そういうことにつながっていくと確信しているところです。これからの先行きが不透明な時代ですが，こういったことが子供たちの生きる力や，どんな困難にも向かっていくことにつながる資質・能力を育成していくことにつながると思います。これは副市長から御指摘がありましたけれども，数値として現れる学力，そこへも必ず直結することです。今の学力調査は暗記して知識の多寡で評価する調査ではなく，どのように解決できるかということを測る問題となっていますので，今年度は残念ながら3ページのような結果が出ていますが，今の取組をしっかりと確実に進めていくことで，数値の面でもきっちりと成果が出てくるようになると思います。今日，申し上げたことを実現していきながら市民のみなさんから竹原の教育は安心だと言われるようなところを目指していきます。市長部局の皆さんからしっかり応援していただいて，協働しながら進めていきたいと思えます。

○今榮市長

はい，ちょうどいい時間になってきましたので，もし特別ないようでしたら，以上で協議を終わりにしたいと思います。いかがでしょうか。

○西川委員

最後に一つよろしいですか。去年も申し上げたことですが、来年度から安芸高校と呉昭和高校が募集停止になりました。これは、2クラス以下でほぼ定員を満たしての募集停止です。今、竹原高校と忠海高校の生徒数が定員の50%くらいで、その状況を危惧しています。先ほどの協定とも関わるのですが、竹原市に子供たちが「行ける」ではなく「行きたい」と思う高校があるかが学習のモチベーションにもつながると思います。遠くに行くとお金もかかりますし、小中で先生方に鍛えていただいた学力をさらにつなげていく学校が自分たちの町にあるということです。そういった意味では、伝統ある竹原高校、忠海高校の名前は大事にされていると思うのですが、名前を変えても良いので、ぜひもし何か先手をうったアクションを起こしていただければ、2つを1つに統合して、子供たちがより高い学びができる、主体的に対話できる力を含めた学びができる高校の存続について先手を打って図っていただければと思いますので、よろしくをお願いします。

○今榮市長

たくさんの御意見をありがとうございました。市長部局としては、委員さんの考え、又は御指摘いただいた対応を積極的に推進していきたいと考えております。竹原市の教育の推進について今後もしっかり対応するという事で、協議事項に関していったん閉じさせていただきたいと思います。それでは、事務局へお返しします。

○三上課長

協議事項は、全て終了いたしました。時間的にも良い時間になりましたので、特に御発言がなければ、これで終了とさせていただきたいと思いません。よろしいでしょうか。

○今榮市長

最後に私の方から。協議の中にあってもおかしくなかったのですが、広島県立大学との包括連携協定とか、他の企業と様々な連携を進めてきました。何が目的かというと、基本的に県立広島大学は究極ですが、竹原市は高等教育機関、いわゆる大学が無いですよね。無ければ、無いで終わるのではなく、大学を連れて来る、というのが私の思いです。県立

広島大学が最初に包括連携協定についてご支援いただいて、今回成就しています。広大や叡啓大学とお付き合いしないということでは全くなくて、究極の希望は、竹原の市民が、就学前が今こども園になったということで、教育の要素がずいぶん取り入れられた考え方でやっていますけれども、就学前、義務教育、そして高等学校があって、いわゆる一般の社会、生涯学習という分野があって、竹原市において生涯学びの環境があるのだということをつくっていきたいというのが私の思いです。ひとつの表現として、県立広島大学の包括連携協定があるし、さらにこれから学びというのが教育委員会だけではなくて、色々な場面でいろいろな年代で体験することができる、経験することができる触れることができる環境を竹原市としてしっかりつくっていく、というのがまちの役目ではないかと思っています。その意味で、義務教育、教育委員会のテリトリー以外の部分でも大きな目標を掲げながらも今回、一部ですけれども説明させていただいたような連携を進めているということをご理解いただき、市長部局だけでなく、竹原市教育委員会と大学が連携協定を結んでも問題ないと思っていますし、竹原というのは大学が無いけれどもいろいろなことができるんだね、ということがPRできるように、また実体験できるように進めていきたいと思っていますので、またいろいろな意見をいただきましたと思います。ぜひよろしくお願いいたします。以上です。

○三上課長            それでは、以上をもちまして令和3年度第1回竹原市総合教育会議を閉会いたします。

令和3年10月28日 午後4時55分閉会